

～ 府中市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第7期)の位置づけ～

資料2

人口構造の変化(高齢社会の進行)

- ✓ 日本の高齢者人口は、現在の3,000万人超から2042年には約3,900万人でピークを迎える見込み
- ✓ 医療や介護の需要が増える後期高齢者人口は、2025年には2,000万人超と急速に増加(2015年比500万人増)。総人口に占めるその割合は増加し続け、2055年には国民の約4人に1人が後期高齢者となる見込み
- ✓ 2030年頃に後期高齢者人口の増加の伸びは落ち着くものの、より医療と介護の需要が高い85歳以上人口は、2040年頃まで増加が続く
- ✓ また、高齢者の単身世帯・高齢者のみ世帯や認知症高齢者も増加すると見込まれる(65歳以上の認知症患者数は、平成24年に462万人であったものが、平成37年には約700万人、5人に1人となる見込み)
- ✓ 社会保障給付費については、平成25年度に110兆円を超え、過去最高の水準。一方、介護保険料を負担している40歳以上人口は2021年をピークに減少局面に入る見込み等

国の動向(介護保険制度の見直しの方向)

- ✓ 地域包括ケアシステムの推進
保険者機能の強化(給付の適正化)、医療と介護の連携、地域支援事業・介護予防の推進
- ✓ 介護保険制度の持続可能性の確保
軽度者への支援の在り方、福祉用具・住宅改修についての給付の在り方、利用者負担等の検討等
- ✓ 「見える化」システムによる客観的なエビデンスに基づく計画策定とPDCAサイクルの構築
- ✓ 自立支援の推進、多職種協働・医療介護連携の推進
- ✓ 介護離職ゼロに向けた取り組み、多様な介護基盤整備や介護休業等を取得しやすい職場環境整備
- ✓ 同時改定となる医療計画との連携
- ✓ 地域づくりを念頭に置いた住民主体による介護予防活動への方針転換と横展開等

【第7期計画策定に向けた実施内容(案)】

